

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代に対応できるよう、思考力・判断力を身につけ、心豊かな人間性を育む学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「人をつくる」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 すべての教育活動において、きめ細かい指導を行い個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤や他者を思いやる心を育成する。
- 3 学校行事や部活動への積極的参加を促し情操面を豊かにし、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。

2 中期的目標

【1】 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア) 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
- イ) 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
- ウ) 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。
※ 教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」の目標値は4.5以上。(令和2年度 4.3)これを令和3年度までに目標値にする。

(2) 生徒のニーズに対応したクラス編成

- ア) 生徒の多様なニーズに対応し、令和3年度より新たに3年コース(発展文理クラス・発展探究クラス)として新しい教育活動を実践する。現行の英数・英数発展・6年一貫の3つのコース制では2年生・3年生には実践し、それを共有する。また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。
- イ) 発展文理・発展探究クラス共に3年後の進路実現はもちろんのこと、探究活動を通して主体的な姿勢を育み自ら夢や目標を達成する意欲を高める。
 - ・ 発展文理クラスは応用的な内容まで掘り下げた授業を展開する一方で、学習のみならず何事にも深く追求する姿勢を育む。
 - ・ 発展探究クラスは週に1単位「探究」の時間を設け、主体的に取り組む活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて学習意欲や行動力を高める姿勢を育む。
- ウ) 現行2・3年生はコース制を存続し、以下のような教育を継承する。
 - ・ 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
 - ・ 英数発展コースは、応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。
 - ・ 6年一貫コースは、自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。※ 生徒評価アンケートにおける「コース満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度 4.2)は昨年より0.1ポイント上昇したが、これを維持できるよう努力する。

(3) 進路指導

- ア) 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するための進路ガイダンスを行う。
- イ) 個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行う。
※ 生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度 4.2)0.2ポイント上昇した。

【2】 学習面において時代の変化に対応した、「主体的な学び(探究)」を実践し、きめ細かい指導を通して生徒自らの夢や進路を実現するため確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア) 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。
- イ) 授業に創意工夫を行い、デジタル機器を使用し、効果的に分かりやすい授業を行う。
- ウ) 基礎学力の向上をめざすため、放課後学習・休暇中の講習や活発な自習室活動を実施する。
- エ) 探究活動(発展探究クラスの「探究」授業含)を通して、生徒自らが課題に向けて考え、協働する力を養い、夢の実現に向け、学習意欲や課題解決能力を高める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」の目標値は4.0以上。(令和2年度 生徒4.1 保護者3.7)と生徒の満足度は0.3ポイント上昇し、目標値に達したが、保護者から見れば満足するような結果ではなかった。保護者の評価を令和3年度までに目標値になるよう努力する。

(2) 人権教育

- ア) 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいの有無にかかわらず、多様性を尊重する障がい者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。
- イ) いじめ等を未然に防ぐため各学年、担任による日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
- ウ) 学年毎にテーマを決め、人権教育を行う。
- エ) 12月の人権週間には人権講演を実施する。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度 生徒3.8 保護者3.8)評価が0.2ポイント下降し目標値を下回った。令和3年度年度には目標値を達成する。

【3】 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて主体性を持った豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア) 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
- イ) 挨拶運動等を実施し、日常生活での基本的なマナー及び公共施設や交通機関でのマナーの向上に努める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を知らせる指導」の目標値は4.0以上。(令和2年度 生徒4.4 保護者4.1)昨年に引き続き目標値に達した。。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア) 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識をもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。
 - イ) 情報モラル講演会などにより、スマートフォン、タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。
 - ウ) 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。
※ 教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」の目標値は4.5以上。(令和2年度 4.2)であり、昨年より0.1ポイント上昇したが、令和3年度年度まで目標値に近づくよう努力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」の目標値は4.0以上。(令和2年度 保護者4.0)と昨年同様であり、創意工夫し令和3年度年度には4.2とする。

(3) 学校行事・部活動や探究活動

- ア) 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
- イ) 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。
- ウ) 全クラスで取り組む探究活動、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させる。
※ クラブ活動や行事の目標値は4.2以上。クラブ活動(令和2年度 4.3)行事(令和2年度 4.3)と昨年同様高評価である。次年度もこれを維持する。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア) 生徒が抱えている問題に対して、支援コーディネーターを中心に生徒相談係が一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。
- イ) 保護者、ICP(臨床心理研究所)と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。
※ 生徒評価アンケートでの「個人面談等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度3.9)昨年より0.1ポイント上昇したが、令和3年度年度には目標値に達したい。

【4】 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア) 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
- イ) 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度 3.6)と昨年より大幅に下降した。これは、新型ウィルスの影響により通常のPTA活動ができなかったためであり、来年度は目標値を目指したい。
※ 生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和2年度 4.2)であり、令和3年度もこれを維持する。

自己評価アンケートの結果と分析〔(令和3年度)2021年11月実施〕	学校協議会からの意見
<p>評価項目:教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法:各項目について、5段階評価で行う 5:大変そう思う 4:どちらかといえば思う 3:普通 2:あまり思わない 1:全く思わない</p> <p>○全体評価 ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒 4.5・保護者 4.4 と昨年に引き続き高評価であり、これからも良い評価を目指す。</p> <p>○学習指導等 ・文部科学省の提唱する「生きる力」を育むため取り入れた主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングや ICT を利用した授業で生徒の授業に対する取り組みの評価は、教員 4.3、生徒 4.1 となっている。教員は新学習指導要領による改善を熟知しながら、生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。</p> <p>○生徒指導等 ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行いました。教員の自己評価は 4.2 と昨年より 0.1 ポイント上昇している。より一層、子供たちの基本的生活習慣を見つめなおすよう努力したい。 ・近年、「いじめ」についての見解が大きく変わり、多様化により人により認識も価値観も違いが生じているように思える。そんな中「いじめの対応」について、それぞれの事象が背景・性格等一つ一つのケースが異なるため、教員の対応が試行錯誤の繰り返しになっている。そのため教員自身の自己評価は 4.0 と昨年より 0.3 ポイント下降した。しかし、教員は一人ひとり問題に対して真摯に向き合い努力している。保護者から見た評価が 3.9 を下回っているのは、面談や子供たちの様子で生徒の声を聴き取る対応に満足していないからと思われる。今後、教員の対応研修を重ねる努力を行う。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は「実行から学べ」の教育方針のもと、体験を通して学んだ知識を使いこなせる能力を身につけるために力を注いでいる。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動及び人間関係の項目は、いずれも高評価である。</p> <p>○学校運営 ・学校運営・学校経営について、昨年同様教員による自己評価は 3.9 で教育内容に比べ評価がやや低いが、昨年に比べ 0.1 ポイントながら向上傾向にはある。教員間の相互理解のもと、少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう今後も努力を続けたい。 ・学習に関する評価では教員の自己評価は殆んど 4.0 以上と高い。「学習の遅れている生徒への支援」については 4.3 と昨年度より 0.5 ポイント向上した。少子化や多様化に伴い学習に意欲的でない生徒も多く入学することも予想されることから、教員が一人ひとりの実情に合わせて生徒への学習支援について努力していることがうかがえる。今後も研鑽を行い、より良い指導ができるようにする。 ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については人権教育・生徒理解など計画的に実施しているが、今年も新型コロナウイルスの影響により研修や自己研鑽に参加が難しい中、オンライン研修などに少しずつ参加できるようになってきた。校務の整理を引き続き課題とし、自己研鑽ができる環境整備に努力したい。</p> <p>【分析】 今年度の学校評価については新型コロナウイルスの影響で臨時休校等も続く中、後半には延期してきた宿泊行事も無事に実施することができ、正常には届かないながらも生徒が満足できる教育活動を取り戻しつつある。加えてコロナ禍により、ICT 教育や学校改革など変化することへの速度が加速でき、学校全体に活気が戻りつつある。 生徒・保護者の学校評価もいくつかの課題は残すものの、概ね4点以上の評価を得ることになり、日常への感謝を生徒とともに感じるとともに、当たり前を大切に次年度の一層の向上に努めたい。 2年間で向上しつつある ICT 教育や生徒主体型の行事改革など、今後の完成に向けて努力し、来年度は、より満足いただけるよう教育の質を高めるため、再考の必要な項目や評価の低い項目を注視し、改善の対象にしたい。</p> <p>学校目標 目指す学校像として「変化が加速し、多様な課題解決に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を身に着け、心豊かな人間性を育む学校をめざす」という掲題のもと教育活動を行っていきけるよう、改善や進歩が必要な事項を改善し、向上への努力を続けたい。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう全職員で取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 学校経営計画について きめ細かい指導については、きめ細かさのとらえ方に差があるようにも考えられるが、概ね評価できると思われる。 コロナ禍においても生徒の安全を最優先しながらも、新しい形の行事の提供やそれに対する取り組みなど、生徒の成長のために努力、工夫している学校の姿は評価に値する。</p> <p>○ 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価「進路指導」 進路指導については、「情報提供の充実」に向け、再度学校でもその方法について検討してほしい。 冊子やWEBで調べられない、学校間同士でしか得られないような情報の提供があれば進路選択に役立つ。場合によっては卒業生の実際の声を得ることも高校の様子を知る上で役立つ。</p> <p>「教科指導」 学び合い(グループ学習)については、そのアクティブラーニングの実践について保護者に周知することにより、「探究活動」などの重要性の理解を深めることが必要ではないか。学級通信、学年通信(SNS)などで発信することを検討されたい。 「アクティブラーニングが学習定着に効果的である」という理解を保護者に広げる努力が必要である。</p> <p>「人権教育」 人権教育は、その前向きな取り組みは評価するが、多様化する情報機器(タブレット)のモラルや情報モラルなどについて、保護者への理解の徹底や強化が必要なのではないかと思う。生徒本人よりも、保護者の情報モラルに関する理解に差があることにより、生徒のSNSなどによる問題行動につながっている場合が多いのではないか。 情報機器(スマホ、タブレット等)については家庭では保護者の管理下であるという認識を深める努力や工夫が必要と考える。情報モラル講演会の内容の配信やオンラインでの説明などにより、「校則の変更やスマホの規制等について」共有の強化が必要である。</p> <p>「学校行事・部活動」 コロナ禍により制限が多い中、部活動や宿泊行事など可能な限り実践できたことは評価に値する。過去に比べ、活動内容や活動量に物足りなさも感じ、高等教育においても競技を続けたい生徒の体力強化に不安もある。反面、クラブの基本方針による健全な学校クラブの在り方や活動のあり方もあるので、そのバランスを理解し、年間計画の充実を図るべきである。</p> <p>「生徒指導」 課題や悩みを抱える生徒への対応については、「臨床心理研究所(ICP)」の取り組みは素晴らしいが、時にその機関を利用することに抵抗(勇気)が伴う。もう少し名称など、身近に感じるようなあり方があれば良いかと思う。 また、一昨年より悩みを持つ親の懇親会や講演会などが開催されていることは大いに評価できる。</p> <p>「保護者会(PTA)」 コロナ禍により活動に限りがあったため、評価はあまり参考にならない。PTA五役が努力したが、他の保護者にとっては充実感が薄かったように思う。全学年の保護者が関われる活動が望ましい。</p> <p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価 続くコロナ禍において、制限の多い中、教職員が様々な挑戦に取り組み、「リモート配信」や「タブレット授業の充実」、「新しい行事への取り組み」などに取り組んでいることは評価できる。 生徒会活動でも校則見直しプロジェクトへの取り組みなどコロナをきっかけに新しい学校づくりに目を向ける部分で成果がある。今後も期待したい。</p> <p>○ 結果 一昨年、コロナ禍により、厳しい制限下で、模索を強いられたことから、ウィズコロナで「新しい発見」に向け、努力し、行事も新しい形を模索した一年であったことにより、通常との比較はできないものの現在の学校の取り組みや考え方に満足いただけている。 反面、より良きものを求める上での課題を指摘いただけた。課題や問題点を整理し、次年度に向け改善し、よりよい学校づくりに努力したい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価
令和3年度

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する	(1)私学の独自性	<p>ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。</p> <p>イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話し、理解を深める。</p> <p>ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。</p>	<p>ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が 4.2 である。</p> <p>イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明する。(令和3年度 4.2)</p> <p>ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行う。(令和3年度 4.2)</p>	<p>ア. 教員の建学の精神・教育理念の理解が定着してきている。(○ 4.2)</p> <p>イ. 教員がよく理解し、それに基づいて教育を行うことができた。(○ 4.1)</p> <p>ウ. 生徒指導部は毎月月間目標を設定し、教育方針の啓発に努めることができた。(◎ 4.4)</p> <p>(1)について概ね高評価で、これを維持する。</p>
	(2)生徒のニーズに対応した教育活動	<p>ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。</p> <p>【1年生】</p> <p>イ. 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現する。</p> <p>ウ. 発展文理クラスは、日々の確認テストや学習目標の設定を通じて、自ら応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現へのニーズに対応する。</p> <p>【2・3年生】</p> <p>イ. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</p> <p>ウ. 英数発展コースは、夏期講習などで応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。</p> <p>エ. 6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。</p>	<p>ア. それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、教員の評価は4.1</p> <p>イ. 常に新しい課題や取り組みを提供し、調べる・まとめる・表現する一連の探究の流れを体得させる。</p> <p>ウ. 自らの課題を常に持ち、すべきことを具体的に実行できる力をつける。</p> <p>令和3年度開講であり、それぞれのクラスの理解に努める。</p> <p>イ. (令和2年度 生徒 4.1 保護者 4.2)</p> <p>ウ. (令和2年度 生徒 4.5 保護者 4.3)</p> <p>エ. (令和2年度 生徒 4.2 保護者 4.3)</p> <p>全コース平均、令和2年度 4.2 でそれぞれのコース理解が浸透してきた。</p>	<p>ア. コースの特徴を理解し、授業評価を検証し、今年度に改善し実行できている。(○ 4.2)</p> <p>生徒、保護者ともイ. ウ. エ. の全てのコースについての取り組みについて理解し満足している。(○ 4.1)</p> <p>(2)は、現在、新クラス制度と旧コース制度の過渡期であり、教員も変化、対応に挑戦しており、模索部分もあるため、自己評価が下降しているが、情報交換を十分にしながら、改革に努力したい。</p> <p>反面、全般的にそれぞれの生徒・保護者の満足度には変化がなく、満足の域にあることは、それぞれの現場での努力の表れかと思われる。今後も理解に努める。(○ 4.1)</p>
	(3)進路指導	<p>ア. 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 自分の将来について主体的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。(1年)</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。</p>	<p>ア. 生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 探究活動を通じて、自ら考え、進路選択できる力を養成する。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっている。</p>	<p>ア. 情報化により、進路に関する情報が得やすいため、新しい形の進路ガイダンスに挑戦しており、今後も生徒・保護者が欲しい情報を提供できるよう工夫と努力が必要である。(△)</p> <p>ウ. 進路相談は昨年に引き続き高評価である(◎)</p> <p>(3)の進路指導は中学校の要であり、これからもデータなどを整理・分析し、進路面談に役立てたい。</p>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
2 学習面において時代の変化に対応した、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う	(1)教科指導	<p>ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。</p> <p>イ. ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し創意工夫をす。</p> <p>ウ. 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施する。</p> <p>エ. 自らの課題に向けて考え、協働し、学習意欲を高めるために探究活動を実施する。(1年)</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導は高評価であるが、グループ学習及びALの取り組みについてはより一層の充実を図る。目標を4.0以上にする。</p> <p>イ. 教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を4.2とします。生徒・保護者による授業は分かりやすいか。(令和2年度 生徒4.1 保護者3.9)との開きがある。生徒保護者の目標値を4.2以上に設定する。</p> <p>ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。また、生徒・保護者による学校の学力向上への努力の数値は(令和2年度 生徒4.3 保護者4.0)となっている。令和3年度4.1を目標としたい。</p> <p>エ. 探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心が持て、学びに意欲が得られるようになることを目標とする。</p>	<p>ア. 主体的・対話的で深い学びによる新しい学習形態も少しずつ取り入れることができている。(◎ 4.3)</p> <p>イ. 分かりやすい授業の展開について保護者評価は昨年同様3.9と目標値に達していない。(△ 3.9) 個々の教員による授業研究を推し進め、自己研鑽を推奨するなどし、情報を共有していく。また、ICTリテラシーの向上も目指す。</p> <p>ウ. 生徒の学力支援に対する教員評価は4.3と0.5ポイント上昇し、生徒の勉強意欲については、4.1と本人は頑張っていると評価し、保護者は3.7と低く評価しているが、教員の学習への取り組みについては4.1をクリアできた。(○ 4.1) 教科指導について、生徒一人ひとりの弱点は多岐にわたるため、なかなか満足して頂くことが出来ていないが、引き続き学力向上にむけての努力や意欲を伸ばすよう努めていきたい。</p> <p>エ. 探究活動が生徒の成長につながるかについては教員の手ごたえは上々である。今後の生徒の成長を図っていきたい。(○ 4.2)</p>
	(2)人権教育	<p>ア. 「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。</p> <p>イ. いじめ等の予防、早期発見のため、各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。</p> <p>ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。</p> <p>エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。</p>	<p>ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しています。4.3以上を継続します。</p> <p>イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(令和2年度 生徒3.8 保護者3.8)と低い、目標は4.0以上と設定します。</p> <p>ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。この項目については4.3以上を目指したい。</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事については、生徒の満足度も上昇しています。現在の人権教育を継続します。目標値を4.1以上とします。</p>	<p>ア. 教員は学校生活すべての活動を通して人権教育を行っていると考えており、評価できる。(○ 4.2) 反面実際に人権意識を高めているかについて努力が必要である。(△ 3.8)</p> <p>イ. 教員のいじめ対応について、面談やアンケートにより未然に防ぐようにしており、少しずつ評価を得ている。(○ 生徒4.2) より一層生徒の声を聴きやすくする環境づくりに努める。</p> <p>ウ. 教員の人権意識を高める教育については、高評価である。(◎ 4.5)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事に関して、特に生徒の理解を得られている。(○生徒4.5)</p> <p>人権教育に関しては高評価でもあり、今まで通り綿密な計画を立て、実施する。しかし、いじめに関しては、教員の努力の割には生徒、保護者に満足に至らず、引き続き対応、研修を重ねる努力をしたい。</p>

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>3 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	(1)生活指導	<p>ア. 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動を実施する。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は4.2以上とします。</p> <p>生徒・保護者による教員が規則を守らせる指導も昨年度に引き続き4.1とします。</p> <p>イ. 生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行う</p> <p>い. 風紀委員のおはよう会などと学校月間目標により、さらに啓発を行う。目標値は4.0以上とします。</p>	<p>ア. 規則を守らせる指導について教員の自己評価が下がり、逆に生徒評価が高くなっている。(◎生徒4.4)</p> <p>校則の見直しなど多様な価値観に対応する変革の時期であり、指導について教員の共通認識が必要である。(△教員3.8)</p> <p>イ. 生徒指導部と生徒会を中心に挨拶運動やルールメイカープロジェクトなどの活動を続け、少し向上は見られるが、いっそうの啓発を続ける。(△保護者3.9)</p>
	(2)危機管理と情報公開	<p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。</p> <p>ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p>	<p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備、及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策はどちらも重要である。4.2以上の目標とします。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などで情報機器の正しい使い方が身についたか(令和2年度 生徒4.3 保護者3.7)と保護者の生徒への信頼が低い。</p> <p>ウ. 情報公開については、満足度が向上しています。4.2以上を目指す。</p>	<p>ア. 危機管理マニュアルの整備や学校安全対策は概ね高評価なので、これを維持したい。(○4.2)</p> <p>イ. スマホ・タブレットなどの使用に関して、今年度も生徒と保護者の見解が大きく分かれている。オンライン授業など増える中、情報モラル教育を保護者に理解を広げる。(○保護者3.7 生徒4.3)</p> <p>ウ. 引き続きホームページ、フェイスブックなどのSNSに工夫を加えながら満足して頂けるように努力する。(◎保護者4.3)</p>
<p>4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献</p>	(3)学校行事や部活動	<p>ア. 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励する。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。</p> <p>ウ. 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付けると共に、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させる。(1年)</p>	<p>ア. 説明会やガイダンスなどで、部活動の参加を奨励する。目標値を4.0以上とする。</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てる。目標値を4.1とします。</p> <p>ウ. 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てる。</p>	<p>ア. クラブ活動については例年高評価である。保護者理解の評価も向上傾向にある。(◎保護者4.0)</p> <p>イ. 昨年度実施できなかった宿泊行事や体育会・文化祭を形を変えながら実施でき、評価がV字回復した。感染症の対策を万全にし、次年度も実施を継続したい。(◎4.1)</p> <p>ウ. 文化祭での1年生探究発表など生徒が主体的に活動できている。(○)</p>
	(4)課題を抱えている生徒への支援	<p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。</p> <p>イ. 問題解決の部署としてICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっている。目標値は4.0以上とする。</p> <p>イ. 生徒の個人面談等の満足度は低い。4.0以上を目指したい。</p>	<p>ア. 概ね担任は日直面談を続け生徒の変化を見逃さないよう努力しているが、より丁寧な指導を目指したい。(○4.0)</p> <p>イ. 昨年より0.1ポイント上昇したが目標値ではなく、更なる努力が必要である。(△保護者3.9)</p>
<p>4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献</p>	保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。	<p>ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。</p> <p>イ. 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見るPTA活動はコロナ禍もあり、(令和2年度 保護者3.6)目標値を4.0とし活動を支援します。</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は(令和2年度 生徒4.2)と昨年に続き目標値4.0を超えた。</p>	<p>ア. 今年度も感染予防のため、PTA活動が制限され十分とは言えなかった。そんな中でも、PTA役員の努力やアイデアにより最大限に活動をしていただいた。来年度こそは通常のPTA活動に戻りたい。(△3.6)</p> <p>イ. 着実に生徒会活動は活発になっている。感染症の影響の中、活動が限られていたが、着実に生徒主体の活動に近づいている。(○)</p>